

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171100793		
法人名	社旗福祉法人 元気村		
事業所名	栗橋グループホーム翔裕園		
所在地	埼玉県久喜市小右衛門951-5		
自己評価作成日	令和6年12月3日	評価結果市町村受理日	令和7年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート
所在地	東京都練馬区東大泉3-37-2
訪問調査日	令和7年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活に楽しみを感じてもらえるように余暇活動に力を入れている。行事は月に1回は必ず行い、それ以外でも行える場合は、随時開催している。ユニット同士の合同はもちろん、ユニット単体でも行っています。

季節、天候等も確認して、散歩やドライブ、花を觀賞しに行ったりと屋外での活動も活発に取り入れております。これらの余暇活動に関しても職員の考えたものを尊重して行っており、“自分達も楽しめなければ、入居者も楽しむ事はできない”を根底に入居者に合わせて提供するものと新しい経験をされるものを提供しています。より良いものを提供できるようにアドバイスや修正を行うだけで、職員にも自発的に取り組んでもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

●居室担当職員によりモニタリングを実施し、計画作成担当者への報告やフロア会議での討議をへて支援計画が策定されています。本ホームの細やか・行き届いた支援をあらゆる取り組みと言えます。

●トイレへの誘導については利用者のわかる言葉を使用するなど移動への配慮によりなるべく自立した行動となるよう工夫にあたっています。利用者の安心を優先し、メソッドの引き出しを増やしていくよう情報共有にあたっています。

●地域に向けた認知症勉強会を開催しており、好評を博しています。法人が謳う「社会貢献」を体現しており、あわせて地域との交流の場ともなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念があり、それらを念頭に事業としての役割を考えて実践している。 定期的に理念浸透研修が実施されている。	法人グループのホームページにおいて「質の向上」・「社会貢献」等を謳い、事業の紹介がなされている。法人内・グループ内には多様な介護サービスを有しており、連携により利用者の安心と安全に寄与している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスが5類に下がってから も、施設的には、少なくとも年1回は感染者が確認されており、外部との接触は行えていない。	新型コロナウイルスの分類変更後はオレンジカフェの開催など地域交流を再開している。 地域に向けた認知症勉強会を開催しており、好評を博している。	併設の老人保健施設も含め、リハビリテーション・栄養・看護等様々な専門職を抱えており、これら有する専門性を活かした勉強会の継続開催を企図し、掲げる社会貢献の実践が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括の職員と共同でオレンジカフェの開催を行っている。往診医のクリニックで月1回介護相談窓口を開いている。併設の老健と共同で地域向けのイベントを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みに関しては好評をいただくことが多く、運営に関しては、具体的に大きなご提案をいただいたことはない。地域の活動に関して情報共有することが多い。	地域包括支援センター、民生委員、介護相談員等を招待し、運営推進会議が開催されている。運営推進会議を活用し、地域との防災協力体制を築くことを検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	顔見知りな職員も増えているので、密な連絡は取れてはいないが、必要時適宜連絡を取り、相談や活動を協力できる環境は作られている。	新型コロナウイルス禍以降、市内グループホームによる協議会が中断しているため、法人内施設の会議により情報交換に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の委員会や各職員にeラーニングにて研修している。取り組むケア内容が身体拘束等にかからないか確認を行って提供している。	併設の老人保健施設と協働して身体拘束廃止についての協議を行っている。また別途法人内委員会にて虐待の芽チェックリスト実施などの取り組みもなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の委員会や各職員にeラーニングにて研修している。虐待になりうる可能性のうちから職員やご入居者に事実確認を行い、適宜指導を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	eラーニングにて実施。 必要とされている事例はないため支援できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明等は、職員によりニュアンスが変わってしまう可能性があるため、契約や解約等は管理者が必ず行うようになっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会を設けられていない。	毎月、居室担当者からのコメントと写真を掲載した便りを送付している。本評価に伴う家族アンケートにおいても支援に対する感謝と賞賛のコメントが寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアミーティングを開催し適宜反映させている。	フロアミーティングを開催し、支援方法や情報共有がなされている。往診時など職員が集まりやすい時間帯に開催し、なるべく多くの職員が出席できるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考く管理者から説明を行い、行おうとしている物事は進めらるよう配慮してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	大体の知識はeラーニングで習得できるようになっている。外部の研修も希望があれば随時行うことができるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での横の繋がりは必要と思われるいて、様々な場面で交流できるように取り組まれている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相手の心情等にも配慮を行い、一方的に確認事項を聞くのではなく、その都度の困りごとから始め、そこから紐解いていくように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階で家族が心配されている事や確認したいことを時間をかけて確認をしている。 その上で入居を検討してもらうよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の要望、困りごとは、タイミングが来るまで訴えられないのが現状。訴えがあるまでは、ご家族の要望があれば、その対応を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かし、できることは自身で行えるよう援助、支援している。また家族にも説明を行い援助してもらえるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	制限がある中で、どのように一緒に過ごせるかを随時提案や助言している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時にはお会いできるようにしている。 現状家族が交友関係を把握されているケースがほぼない。本人も連絡先等を忘れてしまっている。	新聞の購読など入居前からの生活習慣継続に努めている。携帯電話の使用などにより家族との関係支援にもあたっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症状でトラブルが発生することもあり、交友関係が崩れないよう職員が間に入り取り持っている。一人で過ごされるのが好きな方には無理強いせず、イベント等で輪に入れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむを得ない状況での退居される場合もあり、要望や相談等で、その後の関係性も継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限りで対応は行っている。職員配置上の関係で都度叶えられていない。	アセスメント・モニタリングを通して利用者の意向の把握に努めている。居室担当者配置の良さを活かし、特性の把握追究をより良い支援につなげるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時にご家族にできる限りでの在宅生活での情報を依頼しており、入居時には情報が閲覧できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活ルーティーンは把握できているため、日常の変化に気づきやすくなっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	契約時にご家族の意向を確認している。入居に対して本人が前向きではないことが多く、ご家族の意向や趣味、生活歴で作成することが多い。	フロアごとに介護支援専門員資格保持者が計画作成担当者に配置されている。目標が抽象的にならないよう心がけながらプランの策定にあたっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は随時行っている。ケアの変更に關しては、随時担当者を中心にケアカンファレンスを行い対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	理念研修でも“考え方”の部分で研修があり、物事に関して、現状を見つめての判断ではなく、どうしたらできるかを考えるように発信している。検討が困難な場合は、管理者等が検討している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の様子等は、ドライブ等を行い確認できているが、何かに関わるような対応は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的な往診医は施設で決まっているが、専門的医療等で元々かかりつけている医者は継続している。	協力医療機関の往診を中心に健康管理がなされている。提携の薬剤師、法人内看護師が立ち合い、多職種の連携をもって往診がなされている。多様な医療機関の利用については今後も利用者・家族等に案内をしていく意向をもっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療関係に関しては随時、看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実施できている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携医の兼ね合いで終末期ケアを施設ではできないことを契約時に説明している。終末期に向かう中でそこまでのポイント毎に現状を説明して家族に判断を促している。	医療機関との協議のうえ、重度化への対応にあたっている。入居時を中心に医療との連携の幅、施設内装備などを説明し、ホームのケアの説明に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年避難訓練を行っている。 地域住民を含めた避難訓練を今年度中に実施予定。	定期での避難訓練、水害対策に取り組んでいる。水害時の対応についてレベルごとの想定がなされている。	定期で開催している運営推進会議を通して地域住民の避難訓練参加や被災時の施設活用などを話し合う予定をしている。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者の性格や周辺症状を理解し、おおむね実践できている。	利用者一人ひとりの認知機能を理解し、動作ごとに声掛けをする・時間をあけるなどの対応に取り組んでいる。利用者の安心を優先し、メソッドの引き出しを増やしていくよう情報共有にあたっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	人員配置の関係でタイムリーなご要望に沿えない時もある。職員都合になってしまうが、できるタイミングで行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本ベースとなる1日の流れはあるが、基本の流れによるものであり、各入居者の流れに添ってサービス提供している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向を中心に行っているが、3枚以上の重ね着等や季節感が不自然な場合は助言や着替えの援助に対応している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は時間的に難しく、洗った食器等を拭いたりする手伝いを行っている。	誤嚥防止のためのペーストによる提供など利用者ごとの状態にあわせた食事提供にあたっている。利用者・家族の意向を確認しながらできる支援方法の検討に努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態を変更して提供したり、水分量が少ない方にはゼリー等で工夫して提供。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの実施。訪問歯科にて、口腔内のチェックや助言を基にケアの実施。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を行っている。夜間は、一部の入居者には睡眠時間の確保を優先しており、オムツ対応を行っている。自身で離床された際には、適宜トイレ誘導を行っている。	トイレへの誘導については利用者のわかる言葉を使用するなど移動への配慮によりなるべく自立した行動となるよう工夫にあたっている。また食事時のテレビ鑑賞もフロアの状況を確認しながら行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	往診医の意向もあり基本的には食事でのコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大まかな時間は施設都合で決められている。入居者の希望により、時間の調整は可能。	シャワー浴・チェアーの使用など利用者の身体状態にあわせて入浴支援にあたっている。安全な入浴となるよう職員の連携をもって職員配置や支援方法の検討など対応に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実践できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	実践できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日行えていないのが現状。嗜好品等は家族の援助を受け対応。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日行えていないのが現状。好み等の把握はできている。季節に応じて花を見に行ったり、ドライブを行ったりしている。	気候を考慮しながら外出にあたっている。広い敷地を活用し、安全に散歩などがなされている。またゴミ捨てなど家事を活用した外出により日常化するよう努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設的に金銭の管理、運用ができないようになっている。 個人の要望で必要な備品がある際は、家族に依頼か立て替えにて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実践できている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	実践できている。	リビングの自席の配置は利用者の相性や嗜好を考慮しながら決定している。毎月のイベントにより季節や食事を楽しめるよう企画・実施に取り組んでいる。利用者が楽しむ様子は様子は家族送付の便りや室内の掲示から見るができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席は、入居者同士の相性の都合で決めているが、食事以外は自由にできようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火気、刃物以外の物は制限なく配置できるようになっている。ベッド、エアコン、は施設で用意している。	居室担当職員によりモニタリングを実施し、計画作成担当者への報告やフロア会議での討議をへて支援計画が策定されている。居室には思い思いの品が持ちこまれており、利用者の個性や嗜好にあふれたスペースとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	実践できている。		

(別紙4(2))

事業所名：栗橋グループホーム翔裕園

目標達成計画

作成日：令和7年2月17日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に要する期 間
1	49	新型コロナウイルスが5類に位置づけられてから、家族との外出は可能になっているが外食や外泊に関しては行えていない。 コロナ禍から含め年に2回程度、感染症が発生している現状。安全を最優先に対応している。	現状より、元の生活に近い環境に戻していく。 現状を継続するのではなく、一つでもできる事を増やす。	制限(環境や時間)を考慮して家族との外食を緩和していく。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。